

## 地域福祉に関する意見交換会

平成 27 年 8 月 19 日（水）19 時から  
鈴鹿市社会福祉センター2 階 会議室

### A 班

商工会議所青年部（4 人）、行政（市 2 人、社協 1 人）

#### 青年部の方々から出た意見

○我々は仕事を与える側であり、安定した雇用をしていくことが社会福祉につながる。仕事づくりが街づくり。市にたくさん仕事がある状態をつくっていくことが重要。障害者を何人雇わないといけないという義務があるが、義務を達成すればいいというものではなく、それを負担と感ずるのか、いい機会と見るのかが大事。

○障害者という認定を受けるまでいかない、グレーゾーンの人たちをどうしていくのか。グレーゾーンの人たちが、当人も周りもそういった認識を持たないまま大人になり、社会に出たときに何もできないという現状がある。雇ってしまった側には責任があるので何か早いうちに気づくことができるような、判定基準（認定基準）をつくっていければ。本人が認めることができるかが問題となるが。

○シングルマザーには手当があるのに、シングルファーザーには手当がない。

○日頃からの近所づきあいが大事。認知症の人や地域で孤立している人たちを地域で早く気づいていければ。地域で全て支えていくことはできなくても、少しでも支えていければ、当人やその家族の負担は大分軽くなる。地域で支えていくためには、個人情報保護の問題もあるが過敏になりすぎではないか。自治会長ですらどこに誰が住んでいるのかがわかっていない。

○鈴鹿市の強みは何か？～の町鈴鹿という～の部分が見えない。様々な政策にしても他の自治体に遅れをとっているように感じる。鈴鹿市の特色を行政が把握して、独自の色を出していくべきでは。モータースポーツの町というのはあるが、行政が子どもたちをサーキットに招待するなどのことをしてもいいのでは。現状は企業がやっている。

○外に出て何かしたい高齢者をどのようにするか。空き地を利用して農作物などを子どもや障害者と一緒に育ててもらうのはどうか。最初のとっかかりの部分だけでも行政がやってくれば、おのずと企業や市民は巻き込まれていく。行政、企業、市民の壁を取り除かなくては。

○知的障害者というのは雇用の側から考えると難しいのが本音。その代わり身体障害者はまだまだ可能性がある。雇用とはいかなくても何か企業が貢献できるのではないか。

○福祉には予算を惜しみなく使っていかななくてはいけないと思うが、金をかけなくてもいろいろなことのできるのではないか

## B 班

商工会議所青年部（4人）、行政（市2人、社協1人）

青年部の方々から出た意見

### ○民生委員について

- ・どんなことをしているのかわからない
- ・高齢の民生委員と若い世代との接点が無く、連携が取れていない。
- ・民生委員が誰かも知らない。

### ○地域づくりについて

- ・高齢者が中心で、若者の意見が反映されない。
- ・まちづくり協議会のモデルタウンを作るのはどうか。
- ・行事（唐人踊り、石取り祭など）を若者が盛り上げているケースもあるが、それも一部。
- ・若者は、地域で過ごす時間が無いので地域のコミュニケーションが取れない。
- ・自治会は、高齢者ばかりで若者との交流が無い。
- ・若者が出合い(地域の草刈とか溝掃除など)へ行っても高齢者ばかりで入りづらい
- ・昔からの集落に家を建て、宮掃除に妻子が行ったら、昔からのおじさんたちでやるからと断られた。
- ・新しい人たちがコミュニティに入るキッカケが必要。
- ・地域に活動できる場があれば、交流できる。
- ・人材育成をして素地を作る必要がある。
- ・PTAも今は女性ばかりで男性がいない。男性が地域との関わりを持たない。
- ・隣近所のコミュニティーをしっかりと作ることが大事。
- ・回覧板にご意見ボードを作るのはどうか。
- ・溝掃除のルールとして上手から順にやるという暗黙の了解があったが、今はコミュニケーションが取れない。

### ○子どもの環境について

- ・歩道が狭く車が多い。死亡事故もあった。旗を持って登下校の見守りしている人いるが、世代交代できるのか。
- ・昔の子ども会は、子どもたちが主だった。
- ・子どものソフトボールチーム無くなった。
- ・昔は子ども会で大人と子どものつながりがあった。
- ・防災のためのグループを作り、地域で子どもを見守る機運を高めるのはどうか。
- ・子どもを守る家などの形だけでなく、活動が必要。
- ・ラジオ体操は、昔は毎日あったが、今は一週間くらいしかない。
- ・子ども会などのお泊り会も無い。
- ・学校帰りの子どもにお帰りと声をかける人は少ない。

### ○企業と地域について

- ・ドコモサーキット通りショップは、子どもを集めるイベントなどを開催し、地域との関わりが受けて売り上げ全国ナンバーワン。
- ・新聞を取ってもらえない、興味が無い人が増えて、お客様感謝祭などで地域の人を集めてアピールしている。
- ・大型店などの進出で便利になりすぎて近くの店は皆閉めてしまった。近所の店でのコミュニティが無くなった。
- ・葬式も近所づきあいが希薄だと行かない。家族葬などが増えた。
- ・墓石を建てたお客さんに、墓参りに連れて行くサービスをしている。本格的に墓参り事業をしようと思っている。地域貢献が商売にもつながる。
- ・営業中に家の異常を感じたら、通報するなど協力することはできるか。

### ○地域での支えあいについて

- ・昨年の冬に前の道路におばあさんが倒れていた。救急車を呼んだらただの酔っ払いだった。後から10軒先のおばあさんとわかった。ぼけていて、よく酔っ払うおばあさんと知っていたら、救急車を呼ばなくても良かったかもしれない。
- ・散歩中のおばあさんが溝にはまり助けたが、知っているおばあさんだったので、家に知らせることができた。知らないおばあさんだったらどうしたらよいか。つながりが薄いと人を助けることもできない。
- ・玉垣は23号線で分かれている。親子でも希薄になり、ちょっと乗せていってと言いつづらくなっている。買い物難民。
- ・公的サービスは財源不足。地域の中で、支えあっていけないものか・
- ・有償ボランティアはいいと思う。ゴミだし、電球換え、輸送手段など、100円、200円でもいい。してもらう人はもちろんだが、お手伝いする方も少しのことで喜んでもらえて嬉しい。元気な高齢者も能力が発揮できることに喜びを感じる。
- ・当然、市がしなければならぬこと以外の、自分の家の庭木とか少し助けてもらいたいことを有償ボランティアに頼る。

### ○行政の役割について

- ・暮らしの情報（冊子）を見ている高齢者は多い。
- ・24時間対応の相談窓口があると良い。
- ・市、社協、地域包括支援センターなど窓口がたくさんあるが、どこへ行けばよいかわからない。
- ・受付した窓口は、たらいまわしにせず、次につながるように責任持って答えてほしい。
- ・他県で災害ホットラインという素晴らしいシステムがあった。